

観光社会資本の事例

テーマ	横浜に残る歴史的建築物「横浜税関本関」		
【施設の状況写真】			
		<p>昭和9年 二代目庁舎が関東大震災で焼失後、三代目のこの庁舎を失業者救済事業として建築しました。</p>	<p>平成 15 年 横浜の歴史的景観として親しまれていた建物の3面を保存活用し、中庭部分に増築を行いました。</p>
【施設の利用写真】			
		<p>2号玄関(資料展示室 クイーンのひろば入口) 創建時の写真を元に復元しました。建物を特徴づける軒飾り、飾り窓枠、捻り柱などの外部装飾はオリジナルを再利用しています。</p>	<p>横浜税関資料展示室(クイーンのひろば) 横浜税関本関の歴史や税関の仕事などをわかりやすく展示し、一般公開しています。</p>
【観光資源としての利用状況】			
<p>横浜は開港以来、世界に向けた日本の玄関として重要な役割を果たしてきました。</p> <p>その横浜港にあって、港を見据える塔を持つ横浜税関本関は、「クイーンの塔」と呼ばれ、イスラム的装飾を持つ外観は、昭和3年に建設された神奈川県庁舎「キングの塔」や大正6年に建設された横浜市開港記念会館「ジャックの塔」とともに横浜三塔と呼ばれ、横浜を訪れる観光客や市民に永年の間親しまれています。</p> <p>横浜税関資料展示室(クイーンのひろば)は一般に公開しています。(執務室内の見学はできません)</p>			

テーマ	横浜に残る歴史的建築物「横浜税関本関」
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 横浜税関本関</p> <p>所在地 横浜市中区海岸通1 - 1</p> <p>事業名 官庁営繕事業</p> <p>事業主体 国</p> <p>事業期間 昭和9年(完成)、平成15年(保存活用整備)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>横浜税関は安政6年(1859年)、横浜開港に伴い徳川幕府によって設置された神奈川運上所がその始まりで、明治4年には横浜運上所に名称を変更、翌年には横浜税関となりました。</p> <p>二代目庁舎が関東大震災で焼失しましたが、三代目庁舎が昭和9年に官庁営繕部の前身である大蔵省営繕管財局の設計によって失業者救済事業として建設され、横浜一の高さを誇る建物として竣工。その後約70年を経て、国土交通省関東地方整備局営繕部による企画、香山・アプル設計共同体の設計による保存活用事業を行い、街路に面する建物の3方を保存・活用するとともに中庭部分に増築を行って、平成15年に竣工しました。平成13年には横浜市認定歴史的建築物として認定され、歴史的にも高く評価されています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>横浜税関 http://www.yokohama-customs.go.jp/</p>	